

仮説の解決策を提示します

生徒と教員が学校に来て正常な教育活動をするためには行事削減が必要です。

大幅な行事削減のための解決策を提示します。

- ・学校教育活動を授業で行う
- ・教員の評価を授業中心にする

解決策という以前に当然行わなければならないことですね。

授業への考え方や学校行事への考え方は、地域や自治体の教育方針によって大きく異なります。授業での学力育成を大事にする地域もあれば、学校行事・部活動・他との交流で教育をアピールする所もあります。内容が当てはまらない地域や学校があったらすいません。

学校の顔、玄関には活動成果をたたえる垂れ幕下がっています。この生徒活動成果の垂れ幕の内容を分類します。部活動など授業の成果ではない内容が8割以上ですね。

これでは部活動を学校から分離することは難しいでしょうね。次に学校のことをお知らせする学年通信の内容を考えてみましょう。行事のお知らせ・連絡と行事の成果が大半になっていますね。学校は経営目標のために活動するといわれます。

その経営目標の内容を分類してみましょう。かなりの部分が授業以外の活動を含む可能性のあるものになっています。授業だけで目標を達成できるものはどのくらいなのでしょう。学校で与えられる担当を一覧にしてみました。

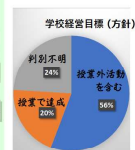
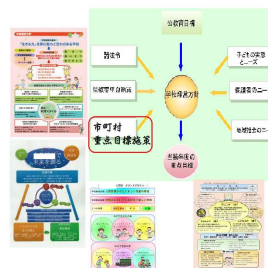
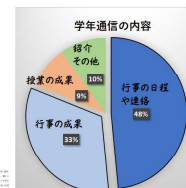
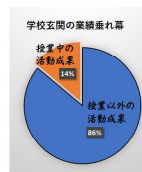
子どもや教師が学校に来て正常な教育活動をするには

大幅な 行事 削減が必要

(授業外活動) ↓

大幅な行事削減のための解決策

- ・学校教育活動を授業で行う
- ・教員の評価を授業中心にする (学校)



これは一人の中学校教諭が担当した一例です。
実に沢山の担当があり、そのほとんどが授業指導に直接関係ない担当です。

授業指導以外に膨大な仕事を学校の職務で与えられていることがわかります。

これだけ教師が、授業以外の担当を職務として求められている現状が見えてきます。

教師は自分の仕事の何が評価されると感じているのでしょうか。

サイトで行った教師は何で評価されるか、というアンケートの回答を見てみましょう。

学級経営、行事、部活動など授業以外で教員は評価されると思う方が大半ですね。

授業以外の活動増加とともに、不登校や支援の必要な生徒は増えています。

教員も多忙となり休職が増え、教員志望者も減少しています。

授業以外の活動をこれほど多く担当させられ、それが学校業務の評価だと思えるような現状が変わらなければ、授業以外の行事を大幅削減するのは困難だと思われます。

教育界の現状は複雑です。現在、大学・高校での私立(わたくしりつ)の割合は公立を大きく上回ります。その私立校では授業の成績ではなく、授業外である部活動の成績が良ければ推薦入学や授業料免除など、破格の待遇が得られます。この教育環境で本来の授業中心の活動に戻り、部活動を含めた授業以外の活動を大幅削減することは、容易でないでしょう。しかし大幅削減していかなければ、学校の現場で苦しむ教師と子供がいるのです。

教育行政の在り方、学校経営の在り方、地域、教員の意識、これらが「学校は授業で教育を授け、そのために子供が登校する」という原則に戻り、学校教育を正常化していくことが必要だと考えます。

END

中学校の教員が学校で与えられる担当

2016年度 公立中学校 教諭として担当した授業(兼任担当、季節行事担当)
特支学級担任 学年会計 交流担当
小中連携委員 PTA文化部 審判派遣員
柔道部合同練習担当 審判派遣員
避難訓練係 視聴覚提示係 教材係
JRC担当 音響機材係 記録ビデオ係
給食副担当 社会科教科担当 ○○地域担当

授業指導に関連する担当 2(12%)
授業指導に関連しない担当 15(88%)



教員の悩み

Q. 教員の悩みの多いことについて



部活動や行事 授業外活動でなく

学校は授業で教育を授ける